

黒毛和種繁殖牛にみられた輸入ストローによる フェスクフット症例

加茂前仁弥^{1)†} 秋山敬孝¹⁾ 岡田啓延¹⁾ 宮崎 茂²⁾

1) 兵庫県和田山家畜保健衛生所 (〒669-5243 朝来市和田山町高田666)

2) 独農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所 (〒305-0856 つくば市観音台3-1-5)

(2008年9月12日受付・2009年9月24日受理)

要 約

黒毛和種繁殖牛約120頭を飼養する農場において、新たに購入した輸入ストロー（トールフェスク）を給与した直後から繁殖雌牛の約1割に食欲および活力の低下、後肢の肢端部の腫脹や歩様異常がみられた。重症な5例のうち、1例では右後肢の蹄角質部が脱落した。給与していた輸入ストローを検査したところ、エルゴバリンが1,200 μ g/kgの高濃度で検出され、ロリトレムBは検出限界（50 μ g/kg）以下であった。また、硝酸態窒素含量は630mg/kgであった。同一ロットのストローを給与していた他の8農場中の1農場において、飼養牛の食欲および活力の低下が確認された。同一ロットのストローの給与試験では臨床症状の再現は認められなかった。以上、本症例はその臨床症状、給与ストロー中の高いエルゴバリン含量および当該ロットストローの給与中止による症状の改善から、フェスクフットと診断した。——キーワード：エンドファイト，エルゴバリン，給与試験，フェスクフット，黒毛和種繁殖牛。

----- 日獣会誌 63, 125～129 (2010)

† 連絡責任者：加茂前仁弥（兵庫県姫路家畜保健衛生所）

〒670-0081 姫路市田寺東2-10-16

☎078-294-1807 FAX 079-294-0948

E-mail : Masahiro_Kamomae@pref.hyogo.lg.jp